

日本海水学会誌 第75巻（令和3年）総目次

表 題	著 者	号 通 巻	頁
巻頭言			
西日本の新しい海水研究	外輪健一郎	1 (430)	1
日本海水学会第72年会によせて	後藤 雅宏	2 (431)	67
光風霽月	角田 出	3 (432)	115
海水資源・環境シンポジウム2021の特集にあたって	日秋 俊彦	4 (433)	175
特集：「西日本の海水科学研究（10）」			
（解 説）界面にマイクロ波をあてよう～化学プロセスにおける界面改質～	朝熊 裕介, 菌部 智史, 柴田 洋輔, Anita HYDE, Chi PHAN	1 (430)	2～ 7
（解 説）マルチモード干渉を利用した光ファイバセンサの原理と塩分濃度測定への応用	田上 周路, 直良 将史, 深野 秀樹	1 (430)	8～ 13
（解 説）塩×金属：光への新たな着眼点	山口 堅三	1 (430)	14～ 18
（解 説）ヒトエグサ養殖におけるサルーシンの活用	山本 博文	1 (430)	19～ 25
2021年度日本海水学会第72年会研究技術発表会講演要旨集			
発表会プログラム		2 (431)	68～ 70
講演要旨（学術研究セッション 口頭発表）		2 (431)	71～ 90
若手会報告			
第12回学生研究発表会を終えて	山中 真也	2 (431)	91～ 93
2021年度日本海水学会第72年会を終えて			
副実行委員長あいさつ	吉川 直人	3 (432)	107
年会記事		3 (432)	108～114
特集：「海に正のスパイラルをつくる（展開する）」			
（解 説）21世紀の世界問題と日本問題への対応 —エネルギーの確保と海水資源—	佐藤 利夫	3 (432)	116～121
（解 説）私の考える宍道湖・中海の水産振興	勢村 均	3 (432)	122～127
（解 説）持続可能な地域社会形成のための水族館の役割	梶 明広	3 (432)	128～134
（解 説）水産物の高付加価値化による地域活性化	高瀬 清美	3 (432)	135～140
（解 説）牡鹿半島における捕鯨業の変遷と鯨類資源の活用	山本 龍治	3 (432)	141～144
特集：「海水資源・環境シンポジウム2021」			
（解 説）海水溶存資源高度利用プロセス構築のための回収技術 — Mg 化合物の晶析技術を例に —	滝山 博志	4 (433)	176～183
（解 説）柵ササクラの水処理装置と海水淡水化プラント	井上 智裕, 秦野 善行	4 (433)	184～188
（解 説）沿岸海水環境の変化によるコレラ菌汚染	松崎 充宏	4 (433)	189～193
（解 説）海洋バイオマス資源の有効利用について	大塚 耕司	4 (433)	194～197
報 文			
電子線グラフト重合法によるイオン交換膜の開発（第2報）—電子線グラフト重合法におけるラジカル挙動の評価—	佐々木貴明, 永谷 剛, 高橋 沙季, 田柳 順一	1 (430)	26～ 32
上限臨界溶液温度を示すイオン液体水溶液の浸透圧挙動	高橋 智輝, 秋谷 昂明, 松本 真和, 保科 貴亮	1 (430)	33～ 37
分子動力学法を用いた微小海水液滴のNi壁への付着・濃縮シミュレーション	齊藤 佑紀, 川幡 大知, 吉田 幹生, 白川 善幸	1 (430)	38～ 45
電子線グラフト重合法によるポリエチレン基材製塩用イオン交換膜の製造（その4）			
—ジアミン架橋剤を用いた1価イオン選択透過性能の付与—	高橋 沙季, 佐々木貴明, 永谷 剛, 田柳 順一	3 (432)	145～152
海水電解用酸素発生陽極を用いた新規なイオン交換膜電気透析法の開発	金井 琴乃, 柴田 玄太, 橋本 功二, 加藤 善大	3 (432)	153～157
ノ ー ト			
銅イオンとの金属置換反応を伴う電気透析法によるカルシウム, コバルト, マグネシウム, ストロニウム			
— EDTA 錯体水溶液からの金属イオンの分離	高橋 博, 角屋 光輔, 瀧澤 一将, 樫内 悦子	4 (433)	198～203

講 座

「財政専売」の時代：近代日本の食塩・塩専売制度と経済学	前田 廉孝	1 (430)	46～ 48
「財政専売」の時代：19-20 世紀転換期の食塩市場	前田 廉孝	3 (432)	158～161
「財政専売」の時代：植民地塩の輸移入と取引	前田 廉孝	4 (433)	204～208
リレーエッセイ (46) 「しょっぱいはなし」	戸田 洋	1 (430)	49
リレーエッセイ (47) 「しょっぱいはなし」	野田 寧	2 (431)	94
リレーエッセイ (48) 「しょっぱいはなし」	大村 信彦	3 (432)	162
リレーエッセイ (49) 「しょっぱいはなし」	高橋 智輝	4 (433)	209

研究会紹介

「日本海水学会各研究会の紹介」		2 (431)	95
-----------------	--	---------	----

会 告

日本海水学会会則		1 (430)	50～ 56
日本海水学会誌投稿規程		1 (430)	57～ 61
第 324 回日本海水学会編集委員会議事録		1 (430)	62
第 325 回日本海水学会編集委員会議事録		1 (430)	62
日本海水学会第 421 回 理事会議事録		2 (431)	96
第 326 回日本海水学会編集委員会議事録		2 (431)	96
日本膜学会第 43 年会		2 (431)	97
ソルト・サイエンス研究財団 第 33 回助成研究発表会		2 (431)	97
第 58 回粉体に関する討論会		2 (431)	97
ソルト・サイエンス・シンポジウム 2021		2 (431)	97
英文誌 Salt and Seawater Science & Technology (通称 SSS&T) について - 編集委員会からのお知らせ -		2 (431)	101
Salt and Seawater Science & Technology Instruction to Authors		2 (431)	102～104
日本海水学会第 46 回評議員会議事録		3 (432)	163～168
日本海水学会第 422 回 理事会議事録		3 (432)	169
第 58 回粉体に関する討論会		3 (432)	170
(一社) 日本調理科学会 2021 年度大会		3 (432)	170
ソルト・サイエンス・シンポジウム 2021		3 (432)	170
Salt & Seawater Science Seminar 2021 開催のご案内		3 (432)	170
日本海水学会第 423 回 理事会議事録		4 (433)	210
第 327 回日本海水学会編集委員会議事録		4 (433)	210
第 2 回晶析分科会		4 (433)	210

著 者 索 引

秋谷 昂明	上限臨界溶液温度を示すイオン液体水溶液の浸透圧挙動	1 (430)	33~ 37
朝熊 裕介	界面にマイクロ波をあてよう~化学プロセスにおける界面改質~	1 (430)	2~ 7
井上 智裕	㈱ササクラの水処理装置と海水淡水化プラント	4 (433)	184~188
大塚 耕司	海洋バイオマス資源の有効利用について	4 (433)	194~197
大村 信彦	リレーエッセイ (48) 「しょっぱいはなし」	3 (432)	162
角田 出	光風霽月	3 (432)	115
梶 明広	持続可能な地域社会形成のための水族館の役割	3 (432)	128~134
檜内 悦子	銅イオンとの金属置換反応を伴う電気透析法によるカルシウム, コバルト, マグネシウム, ストロンチウム - EDTA 錯体水溶液からの金属イオンの分離	4 (433)	198~203
加藤 善大	海水電解用酸素発生陽極を用いた新規なイオン交換膜電気透析法の開発	3 (432)	153~157
金井 琴乃	海水電解用酸素発生陽極を用いた新規なイオン交換膜電気透析法の開発	3 (432)	153~157
川幡 大知	分子動力学法を用いた微小海水液滴の Ni 壁への付着・濃縮シミュレーション	1 (430)	38~ 45
後藤 雅宏	日本海水学会第 72 年会によせて	2 (431)	67
斉藤 佑紀	分子動力学法を用いた微小海水液滴の Ni 壁への付着・濃縮シミュレーション	1 (430)	38~ 45
佐々木貴明	電子線グラフト重合法によるイオン交換膜の開発 (第 2 報) - 電子線グラフト重合法におけるラジカル挙動の評価 -	1 (430)	26~ 32
佐々木貴明	電子線グラフト重合法によるポリエチレン基材製塩用イオン交換膜の製造 (その 4) - ジアミン架橋剤を用いた 1 価イオン選択透過性能の付与 -	3 (432)	145~152
佐藤 利夫	21 世紀の世界問題と日本問題への対応 - エネルギーの確保と海水資源 -	3 (432)	116~121
柴田 玄太	海水電解用酸素発生陽極を用いた新規なイオン交換膜電気透析法の開発	3 (432)	153~157
柴田 洋輔	界面にマイクロ波をあてよう~化学プロセスにおける界面改質~	1 (430)	2~ 7
白川 善幸	分子動力学法を用いた微小海水液滴の Ni 壁への付着・濃縮シミュレーション	1 (430)	38~ 45
角屋 光輔	銅イオンとの金属置換反応を伴う電気透析法によるカルシウム, コバルト, マグネシウム, ストロンチウム - EDTA 錯体水溶液からの金属イオンの分離	4 (433)	198~203
勢村 均	私の考える宍道湖・中海の水産振興	3 (432)	122~127
外輪健一郎	西日本の新しい海水研究	1 (430)	1
菌部 智史	界面にマイクロ波をあてよう~化学プロセスにおける界面改質~	1 (430)	2~ 7
田上 周路	マルチモード干渉を利用した光ファイバセンサの原理と塩分濃度測定への応用	1 (430)	8~ 13
高瀬 清美	水産物の高付加価値化による地域活性化	3 (432)	135~140
高橋 沙季	電子線グラフト重合法によるイオン交換膜の開発 (第 2 報) - 電子線グラフト重合法におけるラジカル挙動の評価 -	1 (430)	26~ 32
高橋 沙季	電子線グラフト重合法によるポリエチレン基材製塩用イオン交換膜の製造 (その 4) - ジアミン架橋剤を用いた 1 価イオン選択透過性能の付与 -	3 (432)	145~152
高橋 智輝	上限臨界溶液温度を示すイオン液体水溶液の浸透圧挙動	1 (430)	33~ 37
高橋 智輝	リレーエッセイ (49) 「しょっぱいはなし」	4 (433)	209
高橋 博	銅イオンとの金属置換反応を伴う電気透析法によるカルシウム, コバルト, マグネシウム, ストロンチウム - EDTA 錯体水溶液からの金属イオンの分離	4 (433)	198~203
瀧澤 一将	銅イオンとの金属置換反応を伴う電気透析法によるカルシウム, コバルト, マグネシウム, ストロンチウム - EDTA 錯体水溶液からの金属イオンの分離	4 (433)	198~203
滝山 博志	海水溶存資源高度利用プロセス構築のための回収技術 - Mg 化合物の晶析技術を例に -	4 (433)	176~183
田柳 順一	電子線グラフト重合法によるイオン交換膜の開発 (第 2 報) - 電子線グラフト重合法におけるラジカル挙動の評価 -	1 (430)	26~ 32
田柳 順一	電子線グラフト重合法によるポリエチレン基材製塩用イオン交換膜の製造 (その 4) - ジアミン架橋剤を用いた 1 価イオン選択透過性能の付与 -	3 (432)	145~152
戸田 洋	リレーエッセイ (46) 「しょっぱいはなし」	1 (430)	49
直良 将史	マルチモード干渉を利用した光ファイバセンサの原理と塩分濃度測定への応用	1 (430)	8~ 13
永谷 剛	電子線グラフト重合法によるイオン交換膜の開発 (第 2 報) - 電子線グラフト重合法におけるラジカル挙動の評価 -	1 (430)	26~ 32
永谷 剛	電子線グラフト重合法によるポリエチレン基材製塩用イオン交換膜の製造 (その 4) - ジアミン架橋剤を用いた 1 価イオン選択透過性能の付与 -	3 (432)	145~152
野田 寧	リレーエッセイ (47) 「しょっぱいはなし」	2 (431)	94
Anita HYDE	界面にマイクロ波をあてよう~化学プロセスにおける界面改質~	1 (430)	2~ 7
橋本 功二	海水電解用酸素発生陽極を用いた新規なイオン交換膜電気透析法の開発	3 (432)	153~157
秦野 善行	㈱ササクラの水処理装置と海水淡水化プラント	4 (433)	184~188

日秋 俊彦	海水資源・環境シンポジウム 2021 の特集にあたって	4	(433)	175
Chi PHAN	界面にマイクロ波をあてよう～化学プロセスにおける界面改質～	1	(430)	2～ 7
深野 秀樹	マルチモード干渉を利用した光ファイバセンサの原理と塩分濃度測定への応用	1	(430)	8～ 13
保科 貴亮	上限臨界溶液温度を示すイオン液体水溶液の浸透圧挙動	1	(430)	33～ 37
前田 廉孝	「財政専売」の時代：近代日本の食塩・塩専売制度と経済学	1	(430)	46～ 48
前田 廉孝	「財政専売」の時代：19-20 世紀転換期の食塩市場	3	(432)	158～161
前田 廉孝	「財政専売」の時代：植民地塩の輸移入と取引	4	(433)	204～208
松崎 充宏	沿岸海水環境の変化によるコレラ菌汚染	4	(433)	189～193
松本 真和	上限臨界溶液温度を示すイオン液体水溶液の浸透圧挙動	1	(430)	33～ 37
山口 堅三	塩×金属：光への新たな着眼点	1	(430)	14～ 18
山中 真也	第 12 回学生研究発表会を終えて	2	(431)	91～ 93
山本 博文	ヒトエグサ養殖におけるサルーシンの活用	1	(430)	19～ 25
山本 龍治	牡鹿半島における捕鯨業の変遷と鯨類資源の活用	3	(432)	141～144
吉川 直人	副実行委員長あいさつ	3	(432)	107
吉田 幹生	分子動力学法を用いた微小海水液滴の Ni 壁への付着・濃縮シミュレーション	1	(430)	38～ 45